
池さん

カトラス

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

池さん

【Nコード】

N8883B

【作者名】

カトラス

【あらすじ】

中学三年のころの夏の思い出です。ゲーセンでからまれた僕は、友達を助っ人と呼んで、そいつらと喧嘩することになった。

池さん

それは、中学三年の夏の苦くて淡い思い出……

その当時、僕達の間ではブルース・リーが流行っていた。

「ホー、アチャー、ホチヨー」

池さんは、ブルース・リーの物真似が得意でクラスの人気者だった。

そんな彼に、転校生だった僕はあこがれていた。

男が男にあこがれるってのも、少しキモイ感じもするが、池さんには、

その時の、僕にとっては魅力があった。

なんでだろう？

きっと池さんといったら、へたれの僕が少し強くなった、気持ちになれたからかもしれない。

僕のあつい思いがあつてか、あらずか、僕達はいつしか親友になつていた。

池さんは、時々、僕にこんな事を言ってくれた。

「お前と俺とは、まぶだちだ。だから、お前になにかあつたらいつでも、助けてやる」

正直、僕は凄く嬉しかった。

用心棒を雇った気分だった。

そうして、へたれの僕は調子にのつた。

そして、事件はおこつた。

池さん

その日、僕は近所のデパートのゲームセンターにいた。

一人でゲームをしていると、二人ずれの隣の生徒があるう事かあ、僕に向かつて、メンチをきっているではないか！

調子にのっていた当時の僕は、相手にむかって

「何、メンチきってんだよ」と言っていた。

「ハアーン、やるのかあ」と、相手はすごんできた。

その時、僕の頭の中には、ブルース・リーの華麗な舞をしている、池さんの姿があったので、

「いい根性してるじゃ ねえかよ」と言っていた。

そうして、僕と隣町の生徒はバトルすることになった。

しかし、二対一では勝負にならないので、僕は相手に提案した。

「お前ら、二人じゃ汚いから、俺も一人呼んできていいかあ」

「お前、そういって、しけるんじゃないだろうな」

まあ、逃げようとしたって、お前の、のってきたチャリンコには仕掛けしといたからな」

と相手は言った。

僕は慌てて、自転車置き場に愛車を見にいった。もちろん相手もついて来る。

愛車を見ると、なんと相手の生徒の自転車にチェーンでつながれていた。

「ご丁寧に鍵までつけられている。

「ここで、待ってるから、早く助っ人つれてこいよ」

そう言って、相手はタバコを吸いだした。

愛車がああゆう状態になってしまったので、僕は歩いて池さんを呼びにいった。

池さんが、住んでいる団地の204号室のチャイムを押した。

すぐに、池さんがでてくれた。池さんは、スイカを食っていた。

困ってる様子の僕を見て、池さんは、

「どうしたんだ、何かあったのか？」

僕は、池さんに事情を説明した。

「わかった。俺に任せておけ。俺がボコボコにしてやるよ」

さすが、池さん頼もしい。

そうして、僕は自転車置き場にむかった。
ただ、ひとつ気がかりなのは、さつきから、池さんの元気がない
のと、しきりに、腹痛いって言ってることだった。

自転車置き場につくと、隣町の生徒が待ちわびた顔をしていた。

「逃げたかと、思ったぜ、そいつが助つ人かあ？」

僕は、とっさに相手に言った。

「池さんっていうんだよ〜いっとくけどな〜池さんはな〜」

ブルース・リー直伝のカンフーをマスターしてるから覚悟しとけよ」

相手は、「そりゃ、面白いなあ〜俺達も少林寺拳法やってんだぜ。

カンフー対少林寺拳法どっちが強いだろうな〜」

脅したつもりが、相手を喜ばしたみたいだった。

「ここで、やるのか」と僕は相手に聞いた。

「ここは、まずいだろ〜、ポリ署も近いしな〜この近くの空き地に
いくぞ」

僕は歩いて、空き地に向かった。道中、相手は武勇伝を語りだ
した。

「俺達はよ〜最近まで少年院にいたんだぜ！

この前も、お前達みたいなのを半殺しにしたしな〜」

僕は、池さんの顔を見た。顔は青白かった。大丈夫かよ、池さん
と僕は聞いた。

池さんは、なぜか小声で任せておけとだけ言った。

そうして、決闘場所の空き地についた。

空き地につくと、僕は決闘のルールをきめた。

ルールは、まず双方の代表をきめて、喧嘩する事（武器をつかっ
てもいい）。

そいつが負けても、残った方がそいつと喧嘩続行できる事。

ただし、負けたと思うのだったら、ギブアップできる事。

負けた場合、相手の言う事をなんでも聞く事。だった。

もちろん、僕の代表は池さんだ。

相手は金髪の、ぬんちゃくを持ったやつだった。

池さんはカンフーの達人だから、もちろん素手だ。

相手が喧嘩開始のカウントダウンをした。

5、4、3、2、1 開始。

僕は息を呑んで池さんを見た。

喧嘩が始まるやいなや。池さんは……

「どうも、すみませんでした」と言って、相手に土下座していた。

「え〜〜〜〜、そんなあ〜〜〜〜」

僕は、どうしたんだ池さん。あのカンフーの華麗な舞を見せてくれ

次の瞬間、僕も土下座していた。

「なんだあ〜こいつらあ〜」相手は大笑いしていた。

「とりあえず、何してもらおう？ そうだな〜三回廻ってワンと鳴け」

池さんは、隣で「ワンワン、ワンワン」言って、廻っていた。

そのあと、僕達は案の定、ボコボコに殴られて、あり金、全部まきあげられたのは、

言うまでもない。

僕達は泣きながら家路にむかった。

池さんは、泣きながら僕に、この事は誰にも言はないでくれといった。

僕はしばらく、考えてから

「うん。誰にも言わない。だって俺達マブダチだろう」

それから、二十年たった。

いまでも、僕達は親友だ。お互いの子供達も親友だ。

(後書き)

この話。恥ずかしながら、実話です。

最後まで読んでいただけの方、ありがとうございます。ペロロ

— (E) (三) (E) (一) — ペロロ

池さん

池さん

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8883b/>

池さん

2008年11月7日09時18分発行